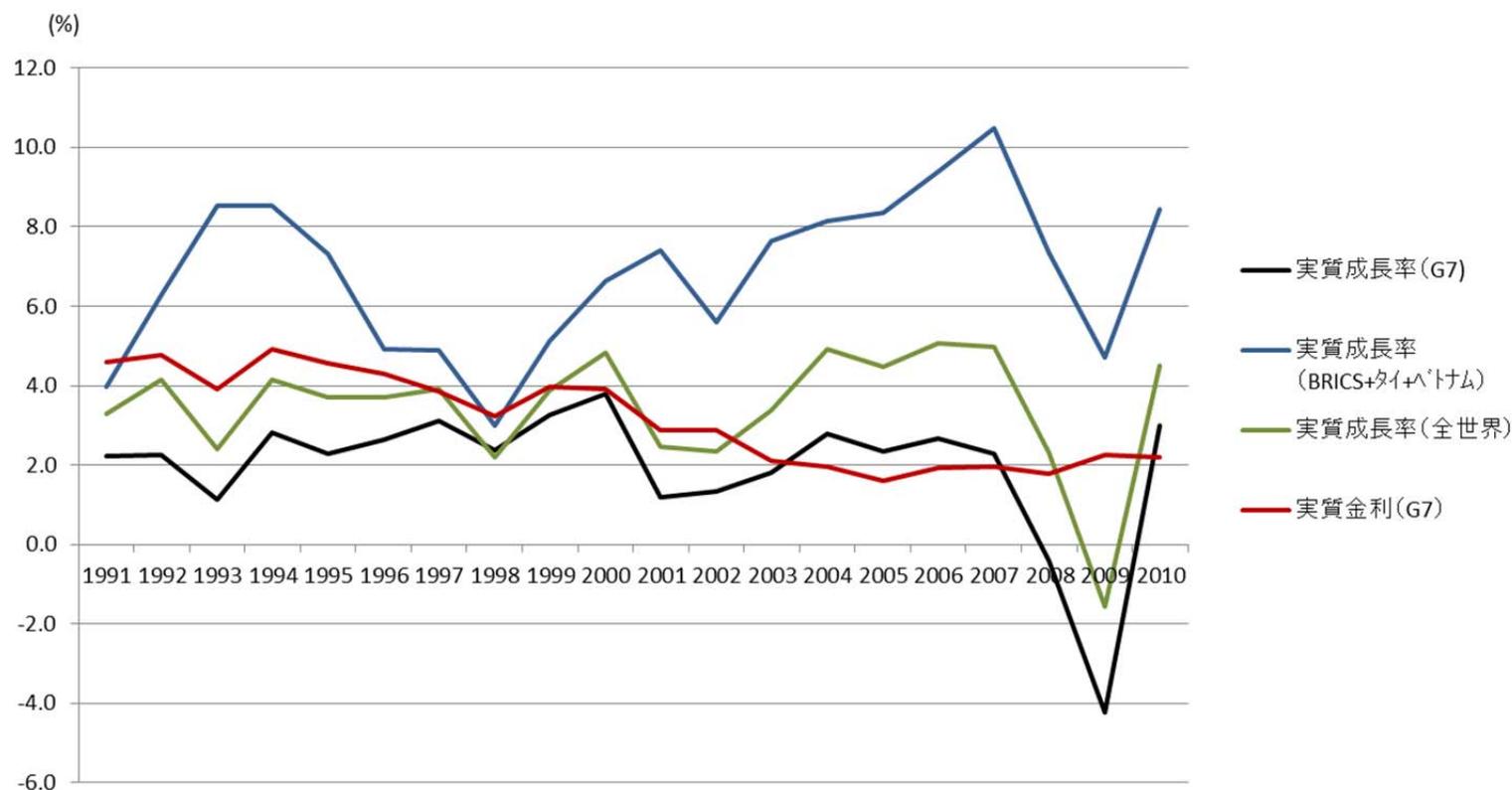


全世界の経済成長率は、新興国の高い経済成長率と成熟国の低い経済成長率との中間にある。
2005 年前後を除けば、実質金利は世界の経済成長率に近いと見える

実質成長率と実質金利



(出典) IMF『International Financial Statistics』

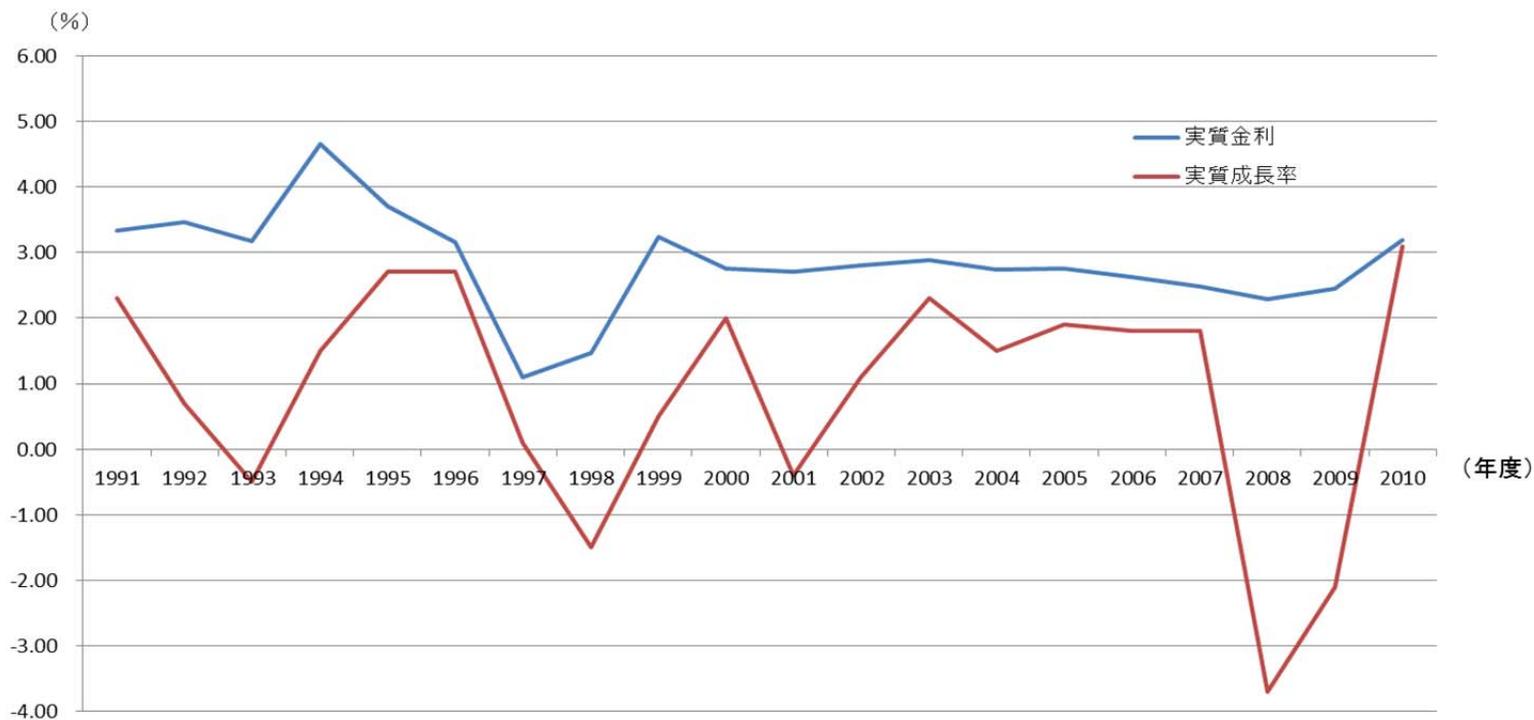
IMF『World Economic Outlook』(April, 2012)

(注) 1. 「実質成長率(G7)」、「実質成長率(BRICS+タイ+ベトナム)」及び「実質金利(G7)」は、各国の数値をドル建てGDPでウェイト付けして計算。

2. 実質金利は「国債金利-GDPデフレーター上昇率」として作成。

我が国の実質金利は他の先進国並み。一方、我が国の経済成長率は先進国の中でも低い

我が国の実質成長率と実質金利の比較

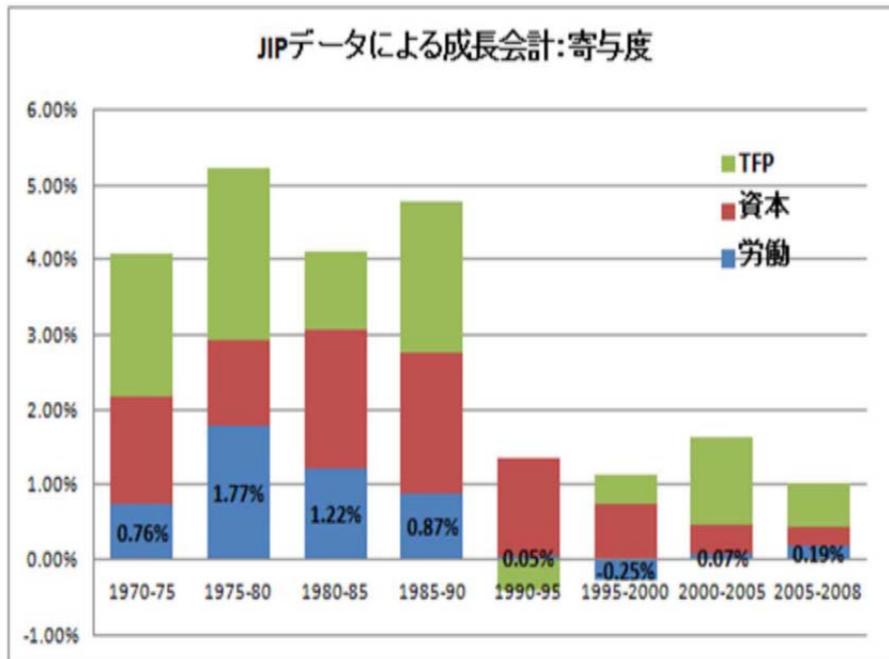


(注)

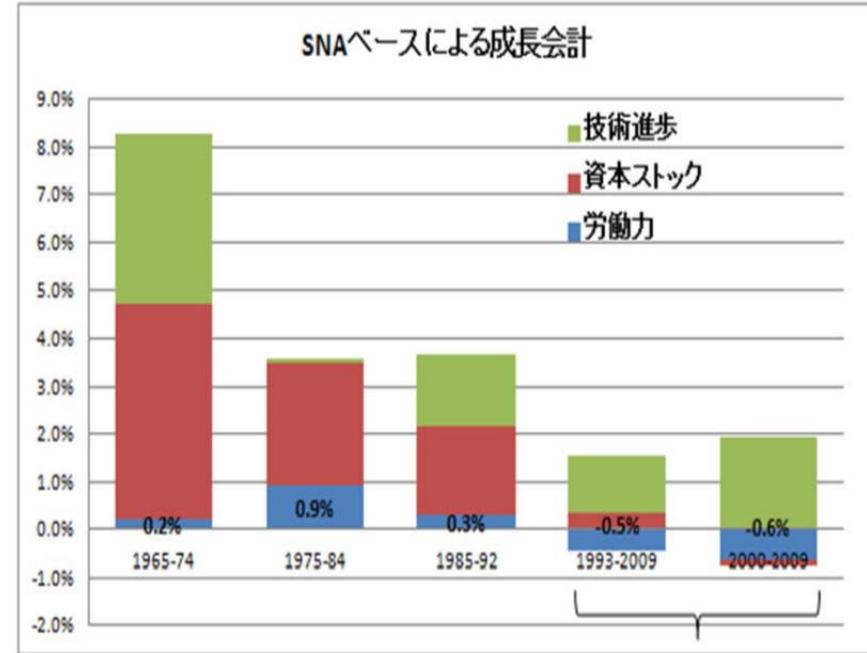
1. 実質成長率及びGDPデフレーターは、1994年以前は2009年度国民経済計算(2000年基準・93SNA)を、1995年以降は2010年度国民経済計算(2005年基準・93SNA)を参照。
2. 実質金利は、「長期金利-GDPデフレーター上昇率」として作成。
3. 長期金利は、「長期国債応募者利回(10年)」を使用。

近年、労働力要因が、我が国経済成長に下押し圧力

成長会計による要因分析



資料: JIPデータ2011、成長会計、マクロ(付加価値)



資料: SNA、労働投入量は就業者数×総実労働時間指数

(出典) 加藤久和『労働力人口の動向－潜在成長力への影響について－』経済社会構造に関する有識者会議 第4回潜在成長率チーム資料 (2012年4月)

(注) JIPデータ: Japan Industrial Productivity Database